

主催 倭文会

# 箏・三絃リサイタル 第十九回

後援 大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会

平成二十三年

とき **五月二十一日(土)** 午後  
五時三十分開場  
六時五分開演

ところ **国立文楽劇場小ホール**

大阪市中央区日本橋1丁目12-10 電話(06)6212-2531  
(地下鉄千日前線・堺筋線・近鉄線「日本橋駅」下車⑦号出口より徒歩一分)

# 「上方の風雅」(四)

この音楽(地歌・箏曲)は十六世紀半ごろ上方(大阪・京都)で生まれた  
優美な叙情歌。十八世紀に円熟盛大、十九世紀半ごろ完結している。

江戸時代、日本列島は緑に覆われ、機械文明が開かれていない町中は  
静寂感が漂い、閑静な佇まいであったと思われる。

豊かな天然自然の変化する神秘的な美しさと、  
移ろう風情に心の機微を表現している。

海外の影響を受けていない日本独自の上方の感性が織りなした音楽である。

◆主演 **奇藤春子**(箏・三絃)

◆助演 **倉橋容堂**(尺八)

守山借子(箏・三絃) 倉橋文子(箏・三絃) こま麻子(三絃・胡弓)

◆お話 **清水正夫**(株)清水陶器店代表取締役社長/一八二五年創業の八代目当主

◆演目

## 梓

作曲 尾川某

(生没不詳 十八世紀末ごろか)

歌詞は「源氏物語」を題材とした謡曲「葵上」に拠る

三弦と低音箏の調和は斬新

海外ではベーター・ベンのところか

## さらし

改曲 深草検校

(生没不詳 十七世紀末から十八世紀前期)

京都宇治川で布をさらす情景を歌詞に、曲全体が

激しいテンポで早弾きの三弦本手と小刻みなリズム

で奏する三弦地との曲調は、ハードロックの感がある

海外ではビバルディ、バッハのところ

## 虫の音

作曲 藤尾匂当

(生没不詳 十八世紀後期ごろ)

昔大阪阿倍野の松虫塚にあった古事を物語にした

謡曲「松虫」に拠る歌詞にした三弦歌物で胡弓と合奏

海外ではハイドゥン、モーツァルトのところ

## 吾妻獅子

作曲 峰崎匂当

(生没不詳 十八世紀後期ごろ)

大阪島之内で活躍

「伊勢物語」の業平の東下りを引き、業平気取りの

男が江戸に下り、吉原での情緒や男女の情愛を歌詞

に曲調は獅子の雄々しさが秘められ躍動的

三弦・箏・尺八の合奏

入場料:前売 3,000円(当日 3,500円)※全自由席

チケット取扱いお問合せ:倭文会 TEL 06-6458-7030・国立文楽劇場 3月15日発売

※郵便振替の場合:口座番号00900-7-179711/加入者名:倭文会(しずのかい) 締切:5月16日(月)必着(確認次第お届けします)